

# 接着の科学

補綴装置装着のエビデンス&テクニック

監訳 宮崎真至

**ADHESIVE CEMENTATION ON NATURAL TEETH**

Materials and techniques

著

Giacomo Derchi

Umberto Campaner

In collaboration with Enrico Manca, Vincenzo Marchio  
Foreword Mutlu Ozcan



# 部分被覆冠の形成

PARTIAL TOOTH PREPARATION

---

U. Campaner

# Chapter 1

補綴処置をするために支台歯形成を行うことは、その後に補綴装置と一体化する生体組織を切削することを意味している。歯質は再生が困難であるため、う蝕、外傷あるいは損耗によって失われた部分は、修復材料を用いることで原形態とともに機能を回復する必要がある。

支台歯形成は、不可逆的な外科的処置であり、そうであるからこそ慎重に行われるべきである。適切であるとともに十分な支台歯形成を行うためには、その根底にある原則に関する知識を備えるとともに、それを臨床に照らし合わせて理解することが不可欠である。最適な支台歯形成は、歯科医師にとっては日常的に行われるものであり、生物学的な必要性、機械的な側面および審美的な配慮などを踏まえて進められる。ここで強調されることは、これらの原則は補綴装置製作の「基本」であるという点である。このことは、本書の主目的とはややずれていると思われるかもしれないが、支台歯形成の原則は、補綴装置の装着法に影響を及ぼすものであり、その端緒とも言えるものである（表 1.1）。





図1.2 全部被覆冠の支台歯形成とフィニッシュライン。

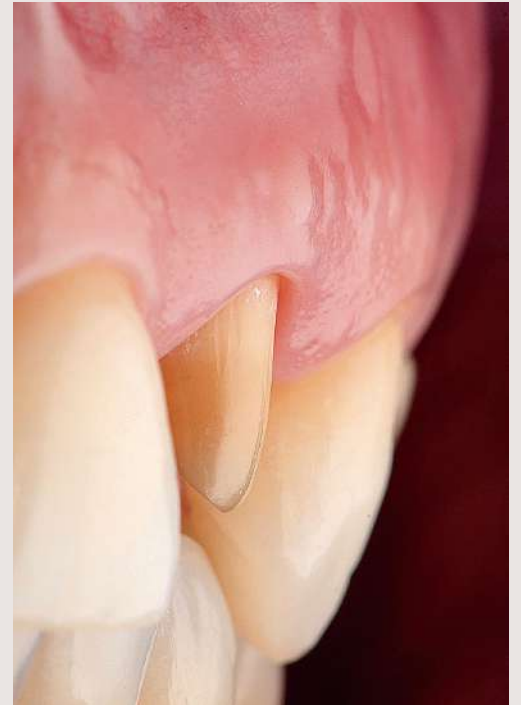


図1.3 全部被覆冠の支台歯形成の終了時。

## PARTIAL TOOTH PREPARATIONS

### 部分被覆冠のための支台歯形成

部分被覆冠の支台歯形成は、歯を完全に修復することを可能とするとともに、外科的侵襲を最小限の範囲にとどめる部分的修復法である。部分被覆冠のための支台歯形成を考察し、その全体像を理解できるようにまとめた表1.2をもとに、各支台歯形成についての詳細を分析したい。

同表に示されているように、それぞれの名称自体が削除される歯質の量的部分を正確に示している。

- **インレー（咬頭間）**：う蝕が限られた範囲にとどまり、残存歯質には天然歯の咬頭が含まれている（図1.4）。
- **アンレー（咬頭部分被覆）**：う蝕が一つ以上の咬頭に及んでいる。この場合、欠損した咬頭を含めて修復する（図1.5～1.7）。
- **オーバーレイ（咬頭全部被覆）**：支台歯形成は、近遠心および頬舌側を完全に被覆するものではなく、咬合面全体を覆う（図1.8～1.10）。

支台歯形成後の歯冠修復をどのように行うかに関しては、2つの方法が考えられる。すなわち、直接法によるコンポジットレジン修復とラボサイドで製作される間接法コンポジットレジン修復である。

## CLASSIFICATION OF COMPOSITES BASED ON FILLER SIZE

## フィラー粒径によるコンポジットの分類

本項では、コンポジットレジンの構成成分について述べる。コンポジットレジンは有機物（マトリック スレジン）と、無機物（フィラー）の2つの主要な相から構成されている（図 3.19）。これに加えて、顔料、重合開始剤および重合促進剤が主成分中に配合されている。すなわち、

- ・セルフキュアのための重合開始剤（過酸化ベンゾイル）および重合促進剤（有機アミン類）
- ・重合開始剤（カンファーキノン）と還元剤として第3級アミン（図 3.20）

である。



図 3.19 コンポジットレジンの組成。

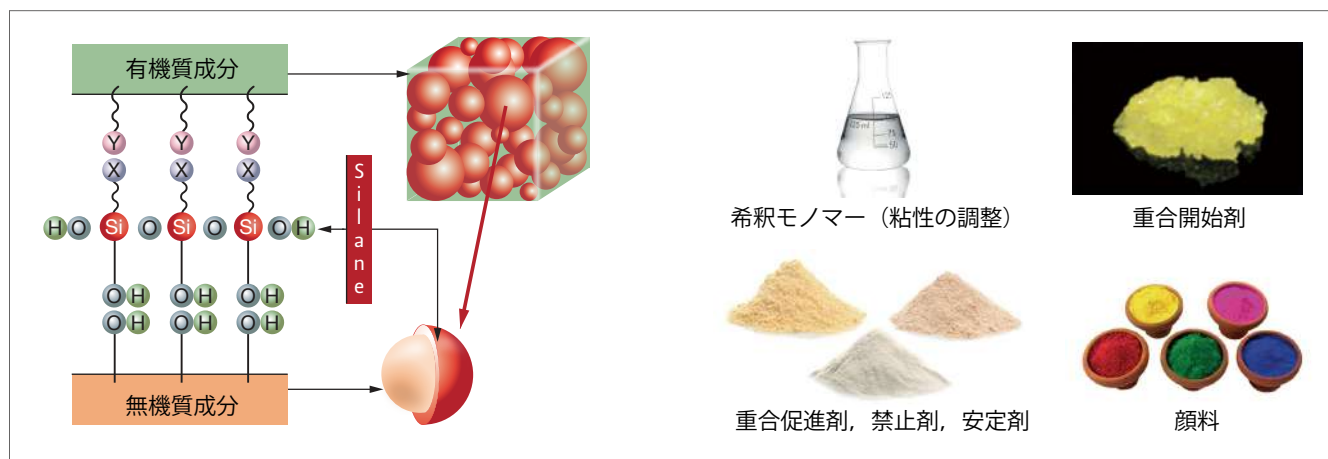


図 3.20 ここで示した各組成は、コンポジットレジンを構成する主要なものであり、これ以外の化合物も添加されている。

## CLINICAL CASE 9

### インレー

INLARS

G. Derchi

歯内療法を行った症例で、3本の補綴装置の製作ならびに装着操作において、被着面の前処理を含めて、必要とされる全てのステップを行っている。



① 根管治療後で、修復処置開始時の状態。



② 窩洞の清掃。



③ 隔壁の設置。



④ レジン支台築造。



⑤ 間接修復のための形成。



⑥ 形成後の状態。